竜丘村公民館報
No. 42
発行人 木下右治
編集人 編集部
印刷所 龍共印刷株式会社
発行所 竜丘村公民館

中學校の整備をどうするか

◇—小学校と併設のまゝ整備するか—◇
◇—村内に独立中学校を建設するか—◇
◇—近村と組合立中学校を建設するか—◇
◇—組合立の中学校はなぜよいか—◇

中学校整備の問題は当村として教育上重大な関心事であり、かねてから大きな課題となつている。これに関しては教育委員会はもとより、村当局者も村会も学校当局者もPTAも研究に研究を重ねている。今までに行つた視察及研究会は左の如くである。

○四月二十七日・二十八日 教育委員、村当局者、村会の教育委員等が東筑摩郡福間中学校（会田、五常、中川、錦部四ケ村の組合立）東筑摩郡筑摩野中学校（芳川、寿二ケ村組合立）南安曇郡梓川中学校（梓、倭二ケ村組合立）を視察

○五月十八日 右の学校を視察して来た事項に就て研究会を開く

○八月二十九日 村当局者、教育委員、村会議員全員、学校当局者相会し研究懇談会

○九月三日 高陵中学校（上郷村座光寺村の組合立）を村当局者教育委員、村会議員が視察

○九月六日 村当局者、教育委員、村会議員、学校当局者、各種団体代表者相会し「中学校整備研究懇談会」を開く。

九月六日の中学校整備研究懇談会にとり上げられた内容をまとめてみると、次の如くである。

問題一 現在のように小学校に併設のまゝ中学校を整備するのがよいのか、独立中学校を建設した方がよいのか。

（答） 小学校と中学校とを併設する事は、教育の立場から見れば勿論よくない。小学校と中学校とはその教育の運営方法が異つているので、それが同じ校地に併居する事はお互にいろいろの支障をきたす。小学校も中学校も各々独立することによつて、お互が完全な教育的機能を発揮する事が出来る。

問題二 中学校教育を充実するのに適当な学級数はどの位か。

（答） 竜丘中学校は九学級だが之ではちいさ過ぎる。十五学級から二十学級位までが適当である。

問題三 組合立にすればなぜよいのか。

（答） 1二、三ケ村にて組合立中学を建設すれば資金が多くなるので、一村で作るよりはるかによい学校が出来、よい施設が出来る。

2二、三ケ村の生徒が寄り合つた方がせつさたくまされ、一村の学校にて教育されるより巾の広い生徒が出来る。

3組合立となり学級数が多くなれば随つて教員数も多くなる。（一例 竜丘中学校は九学級で教員数が十四名であるのに、組合立の高陵中学校は十八学級で三十一名の教員数となる。教員数がすくないと、一人の教員が二、三の教科を担当しなければならないが、教員数が多くなれば一人で専門の一教科を担当し、しかも同じ教科を担当する教員が三、四名となれば教科の研究が向上し、生徒の学力に大きな影響を与えることになる。

問題四 近頃組合立の学校がよいと云われるのはなぜか。

（答） 今までに出来た組合立の学校の方が一村の学校よりよい成績をあげているので、近頃組合立の学校がよいと云われるのだ。

問題五 将来はこどもの出産率がすくなくなるが、見通しはどうか。

（答） 調査してみると昭和三十一年以降から児童が減り、竜丘小学校では一学年が二学級となる（現在は一学年が三学級づつ）から全体で十二学級（現在十八学級）となる。随つて中学校は将来六学級の小さな学校となる。六学級の学校では教育はいよいよ低下する。

問題六 村内に中学校を独立させるにしても、組合立の学校を建設するにしても多額の資金を要するが、それはどうするか。

（答） 村当局者 現在のところ財源はないが、その財源は国庫よりの補助金、村債、増税等によらなければならないが、之は今後研究する事にする。

以上の研究により組合立の中学校がのぞましいという結論に達した。然し之を具体化するには財源の問題もあり、隣村とといけいする問題もあるので、

(一)村内に於ては各区にて研究懇談会を開いて一般村民の総意をきくこと

(二)村外に対しては隣村に呼びかけて共同研究をすること

(三)上郷村・座光寺組合立高陵中学校〔文部省の優良指定学校〕を出来るだけ多くの者が視察すること等を申し合せた。

賢明なる村民諸氏よ、眼を大きくみひらき、将来を見通し、教育の根本施設を具現すべく研究されんことを望む。

下平主事退職さる

下平良明氏は本村の公民館発足以来の功労者であり、足掛五年の長きに亘つての努力されたが、一身上の都合に依り去る七月三十一日を以つて退職された。

村の歴史

⑤交通

A 道路

中世封建社会に開けた鎌倉街道に大した変化はないが、上川路町並の「右久米、駒場、左下条、新馬野」の道しるべが示す通りに、この時代に開善寺門前は交通の要地になり、享保三年には商店の設置十三品目の日用品の売買を許可したので通行者も便利になつた。高野の坂路に繋つ馬頭観音や、久米川傍の精供養の碑を見れば、当時の町並の繁昌振りが想像される。

上川路のガンド洞と駄科の石橋屋前にある石の道しるべは時又の観音様と海へ行く道を示している。（その他は前掲中世封建社会の交通を参照せらい）。

B 中馬

江戸時代の河物運搬に中馬というのがあつた。始めは八五寺辺の農民が野菜等を牛馬で江戸へ運んで之を売却し、帰りには魚や塩を買つてかえる駄賃稼ぎであつた。

伊那は木曽街道の脇街道として一般人の通行が多かつたので、中馬稼ぎがま〜〜旺んで吉田（豊橋）名古屋方面へは帰りには魚塩を運んだので、金刺街道は塩街道とも呼んだ。北は松本、甲府、善光寺方面まで通じた。

⑥中筋

武士階級の封建経済は土地と百姓をして米を得る事が根本政策で米作りの強化拡充が重大な政策であつた。封建社会以前からでも此の米を作るという事は社会生活の基礎となつて、湧水や河川の水を直接簡単に利用できる地点に水田が出来、聚落が生じて文化的向上をみた。その好例は上川路で茂都計、久米、臼井の川水に恵まれて古代社会を形造つて古墳文化が成立した。続いて桐林は駒沢、宮洞堤洞の湧水利用に依る水田開発が古代社会の成立となり、神殿原の神社、前林の寺堂、御所山の建造物の文化の華が咲いた。

水田には湧水より川水の方が米の増産が出来る事は現在でも同様であるが、新川の流水を利用する時又が米作の上の村として定められた事がある。それは文録三年に豊臣秀吉は全国を検地して税法を定めた際の青表紙の検地帳に、用水や耕地の状態を勘案して、上中下の村の品等を決定した。

上の村（反当り二石の年貢）
時又、上川路
中の村（反当り一石九斗年貢）
下の村（反当り一石八斗年貢）
駄科、桐林

この年貢の比率は中世期に若干の変更もあり、又高度の引水工作技術の導入で村の品等順位は変化をした。

A 桐林の中筋

私は以前に延書の官道は上川路より桐林に入り三日市場に通じた事を主張したが、之は三日市場より桐林へ用水を導入した井筋工作と関係が有るからである。

五世紀ころ桐林の土地に居住した高度の文化を有した豪族の手で三日市場下の城附近に水源地を設けミヅノミ（水呑、水の海）原を貫流し臼井北面の山腹を流下し、御所山念地山を経て、泥抜洞に流入して桐林に分水利用した。

これに関した地名を残し又道跡も所々に現存しているが、特に其の中で念地山山中の堰堤の一部を見ても、其の規模の偉大さに驚くものがある。この井筋は途中茶釜洞の出現で崩壊廃絶し、元和二年に至り下殿岡円通寺附近に桐林井口を設置、新川に水を流下し、荒井原で堰き込んで桐林に導水する大工事が成功し、伊賀良井の水系に依存することになり今日に及んでいる。

全村運動會

○秋空の下で全村民の楽しみ

○分舘對抗競技の優勝はどこか

一、期日 十月十一日（日）雨天の際は十月十八日（日）

二、出場回数（年令はかぞえ年）

分舘対抗競技二二 青年層（男女共一六—二五）八 壮年層（二六—三五）二 婦人層三 一般層（三六—四〇）（四一—五〇）（五一以上）五 中学校三 小学校二 保育園三 準備委員会二 計四〇回

三、分舘対抗競技種目

1二百米 男女各一回
2四百米リレー 女一回
3八百米リレー 男一回
4手五百米 男一回
5壮年年次リレー 一回
6婦人年次リレー 一回
7年次リレー 男女一回
8ムカデ競走 男女各一回
9障碍物リレー 男一回
10綱引 男女リーグ戦
11婦人運搬リレー 一回
12ストライク競技 一回

四、賞品 各戸から寄附して頂くのだが本年はなるべくお金でお願します。（標準十円以上）然し品物でも結構です。

米作競進会

一、「昭和二十八年度竜丘村米作競進会開催規程」を九月八日村内に掲示した。

二、主催者 公民館農業部
協力者 農業委員会・農業協同組合・農事研究会

三、参加資格者
本村内に現住し水田耕作農家であること。競作田は原則として一圃場三畝歩以上とすること。

四、審査の結果入賞者には賞状賞品が授与される。

多収量賞
一等（一点）硫安一俵
二等（二点）石灰窒素一俵
三等（三点）トーマス燐肥一俵
技術賞（一点）過燐酸石灰一俵
参加賞 粗品を呈す

五、参加希望者の申込書の形式並申込期日は別に掲示する。

ユニホーム新調さる

ユニホームを欲しいという声は二、三年前から出ていた。ところが今回青年会の野球部が中部支会の野球会に於て優勝し、郡下の青年野球大会に出場する資格を得たのを機会に、急遽にユニホームが出来たのである。

ユニホームを作るにあたつて、公民館運営審議会にて「野球部後援会をつくり、有志の寄附によつて作るがよい」と提案して下されたのはありがたく、無理を寄附をお願いしたのに心よく応じて下さつた有志の方々に対して、深甚の御礼を申し上げる次第である。猶寄附をお願いして廻つたのは、体育部の分館代表部員と青年会員であり、この方々の御努力に対しても感謝する次第である。

この寄附は野球部後援会でお願いしたものであるから、出来上つたユニホームは公民館へ寄附し、各種団体にて対外的試合をするとき着用してもらう積りである。

多い女子の労働
4HC・實態調査成る

村の4Hクラブではクラブ員を対称に、六月十日より七月九日まで一月、農繁期間中の労働実態調査を行つた。これは通例五月と云い、百姓にとつて一番多忙な時期にクラブ員はどの位働き、どの位睡眠時間をとつているかを調べ、4Hクラブの目的である「生活の改善」「農業（経営、技術）改良」の参考に供すと共に毎日の生活そのものに時間的な観念を生むこと、農業の記録を付けるための手解きとして行つたものである。

性別	平均労働時間	平均睡眠時間
男	10.56	8.73
女	11.43	8.00
男	12.48	7.00
女	11.53	7.31
男	13.01	7.41
女	11.54	7.47
平均	11.18	7.11
男	12.31	7.33

この表は三〇名の一ケ月間の平均であつて、労働、睡眠共に正味であつて、休んだ時間、食事の時間等は入つていないとのこと。

そこでクラブでは次の様な問題点をあげ、研究にのりだしている

1、労働時間が一一時間五四分と非常に多いこと

2、男子の労働に対して女子の労働が一時間一三分も多いこと

3、睡眠時間が男子より女子の方が三〇分も少いこと

4、地域的に差はあるが、起床時間が男子の方が遅い

5、労働時間がクラブ別に差がある。一番多いのが上川路で続いて桐林、駄科の順となつている

6、昼寝をする所、しないところとあるが、その時間が地域的に差があること

7、最高労働時間が六月十二日から十七日の蚕の最盛期となつていること 等である。

隨想リレー

隨想

管上清人

飯田の商店街を歩いていると、こゝの小路で一軒、あそこの通りで二軒、という風に到る処であき家を見かける。つい昨日まで他の店に伍して町通りを賑していた家が今日は忽ちガラあきとなつて、新しい身売札がべつたりと貼りつけられる。通りすがりに、硝子戸を透して覗いて見ると、街に面した一間の外は、真昼でも電燈を点けなければ物も詰めないような暗く狭苦しい中の部屋、奥座敷も隣家や向う側の壁と屋根に遮ぎられて、じめ〜〜と薄汚い四坪か五坪の内庭に下り立たねば、空の光を仰ぐことも出来ない。そればかりか、廊下の端にあるらしい便所の臭気が、よどんだ空気を伝つて遠慮会釈もなく室内へ這い込む。

家賃しをしていたこゝ暫くの習慣が性となつて、空家と見ると必要もないのに一寸覗いて見る。そうして何時も同じような光景を見せられてうんざりする。

何十万、何百万の借金に二進も三進もつかなくなつたとか、そのため身内の者がどうのこうのという悲劇が繰りついているのは勿論だがそれは問はないとして、今こゝで取り上げたいのは見かけと中味の問題である。没落の悲境に陥れ去つた人の住み家だけが今見たようなせゝこましく陰気で侘つぽい姿を示しているのではなく大体広狭の差こそあれ、一部の特殊な御宅を除けば都市の家屋の総てが内包している矛盾であろう。

○

町に住んで見るとわがふる郷、魂の置き所という想いは一向芽ぐんで来ない。人間同志の雑多な紊りということの外は感じられるのはたゞ法的に緊縛される組織の網だけである。こゝには、仰ぎ見る広い大空、踏みしめる香ぐわしい大地、明るく健康な光と大気、清例な流れ、という赤裸な自然の恵みがない。あるものは、こましやくれた人為、潤いのない紛飾、中味を被いかくす巧みな辞令等々、凡そ人間性の流露とかけ離れた造花模様である。

一冬を雪に降りこめられて蟄居生活を送つた北国の人の春は、融け去つた雪のあとに現れた大地を素足で踏みしめる事が無上の喜びであるという。大地に歩を運び、これを覆う草と木と、そして頭上を流れる大空の雲と、変幻極りない自然の豊かな表情に、耳目を養つてこそ、人性の麗しい発展があろう。文化は田園に育くまれなければならぬ。

○

所詮我が国の都市は、こうした人間性涵養の条件から隔離生された環境を形成して、形式論理や小器用な機智洒落というような一断面が畸型的に発達したカルカチアとして存在しているようだ。

かくてこゝから生れて来る文化がヒユウマニテーを基盤としない機械的な権力随伴の畸型児である事は容易に考えられる。新人といわれる学者や文化人が、一応尤もらしく利いた風の言説を喧伝しつゝ実は都会人の特質一管に顧客の増減とその反響にデリケートな神経を用いて、多数の持続をはかりその波に乗つてゆこうとする——を露呈していることなど、たゞ軽く笑つては済まされない重大な問題である。ヒユウマニズムを声高く唱えながら、その根底にヒユウマニテイを置き忘れている都会文化人間を機械的な組織と活動にのみ偏局して定位し支配してゆこうとする力こそ、実に恐るべく嵯拒すべきものであろう。原爆の忌むべき恐るべきを知らぬ何人もいないが、人間性の抹殺によつて成り立つ機械的世界観こそ、更に何十万倍も恐るべく人類滅亡を将来することは必至であると憂うる人が果して何人あろうか。

農家經營の先驅

丹保農家部落を視察して

去る八月二十六日公民館産業部に於ては、模範農家組合として上郷村丹保組合の視察を行つた。村民四十余名の参加者があり有意義な一日を過ごした。今回の参加者を年令的に見ると三十才以上が過半数であつて、尚一層青年諸君の参加が望まれた。

午前八時農協本所を出発、自転車にて約三十分、飯沼丹保安楽寺に着く。（これが丹保組合の公民館分館となつている）こゝで九時より十一時まで岡田副組合長他二三の組合役員の方々より組合全般に就き説明を聞く。

一、戸数　七九戸、内専業農家七戸
二、自小作別　自作四三戸、小作二戸、自小作三四戸
三、耕地面積、総面積　五八町
（内訳）水田　三四町五五畝
普通畑　六町一一畝
桑園　一〇町三三畝
果樹園　三町四二畝
蔬菜園　三町八二畝
四、経営規模別
三反未満　一戸
三―五反　一八戸
五―七反　一八戸
七―一〇反　三四戸
一〇反以上　一〇戸
一戸平均耕地約八反
五、家畜飼育状況
乳牛　二頭
役牛（黒牛）　五五頭
緬羊　三六頭
豚　五一頭
山羊　三一頭
鶏　一、三〇〇羽
兎　三〇〇匹
六、農機具の状況
動力脱穀機　四〇（個人一六、共同二四）
籾摺機　一八
精米機　八
電動機　五三
発動機　一
七、其の他
堆肥舎　完備せるもの四〇棟
サイロ　四五基
水稲反収　平均一〇俵
繭反収　平均二七〆
以上の数字よりみても
一、平均一戸当りの耕作面積の広いこと
二、総面積の約六割が水田にて立地条件が良く反収を相当挙げていること
三、電動機の利用率が大きく審

依り、稔実の不充分の種子が多いから、充分塩水選は実施して充実した種子を使用する。

種子消毒は黒穂病、腥黒穂病予防のためウスブルン浸種と風呂湯浸を実施する。

ウスブルン消毒は水一斗に対し

麦蒔適期に播種を

竜丘地区農業改良事務所

ウスブルン五匁入れた溶液に三十分乃至六〇分浸種消毒する。風呂浸し方法は入浴後の風呂を利用し、温度は〇四十六、七度としてその中に種子を入れて約十時間浸種する。特に温度を高くしない様注意が必要だ。

三、播種期について

麦の蒔付時期は地方に依り、又品種に依り異る解ですが、特に本年は水稲の生育が遅れ刈取時期が遅くなりますので、本村としては十月三十日を中心として播種したいと思う。尚品種に依り播種期の異るとは、麦には秋蒔性の高い品種と低い品種があり、これを麦と型と云われているが、この様な面から見ると秋蒔性の高い品種程早くに蒔いて良い。秋蒔性の低い品種程遅く（但し極端に遅い十一月十日以

飼料作物の研究など

村の酪農青年部

本村の酪農も急速に発展し、現在日に一七〇貫約三石二斗の牛乳が生産され、農村の食生活改善と農家経済の安定を図つておる。特に本年夏期から基本乳価の価上りによつて酪農経営前途に明るい見透しがついている。

本年四月結成した酪農青年部は、一つの経済団体であればこそ其の熱意を生かし、飼育管理や色々の研究に入つている。特に大きな事業としては此の秋より飼料作物の栽培研究を実施、品種はライ麦、エンバク、オウチヤードクラス、レツトクロバー、ラデノクロバー、クリムナンクロバー、チモシー、レープ、ゲンタテキー31F、等の九品種を村内各所に試験園を設けて其の研究にあたつている。

ほつかりと夕やみに浮んだ夕顔だなの下で、一日中の汗を流し、あすへの活動にそなえる。それは農村でなければ味おう事の出来ないたのしみだ。あすの天気をやくそくするかの如くに東の山には夕焼雲が静かにうかんでいる。

目の下に見下される田圃には蟋蟀燈の青白い光が点々と見えかくれする。一日中泥まみれになつて遊び回つた子供もおばあちやんと一緒に神妙に庭風呂に入つている。やがてお母さんがそれを抱きとつて汗もが出来ぬように顔といわずからだといわずバタ〳〵とシツカロールの粉をたゝきつける。小麦色の火やけした坊やの顔が夜目にもしるく真白に化粧される。まことに不似合だがそれだけかわいらしい。

○粉のふいた子を抱いて出る夕涼

子供はよく食べる。育ちざかりだからと言えばそれまでであるが親の顔さえ見れば「何か……」の連発だ。そして何かやらないと、大の字にひつくり返つて泣きわめく。隣近所への外聞もあるし一方うるさくて仕方がないから遂にやつてしまう。PTAのえらい先生方がよく子供のおやつの与え方などを言つて鹿爪らしいお話をしていつてくれと何回となくせがむ

子供（その二）

柳川の子たち

ほどくれる。聞いた時だけは成程と思う。然し実際は仕事が忙しくてそんな理想通りにはいかない。ついにねだられるまゝにあればやつてしまう。子供というものは、ほんとによく食べる。食べるからよくひる。一日に何回となく便所にゆく。然しまだひとりで便所に入るには足元があぶなく心配になるつい面倒だから庭先で用をたさせる小さいお尻をくるりとまくつて、「おて、つないで野道を行けば……」大声で唱歌かなんかうたいながら大空の下誰はゞかる事なしにゆつくり用をたしている。然し出る量も多くたちまちに黄金の山がどん〳〵高くなつて尻につかえてきて気持が悪い。ちよつとひつては前に前進する。

○野ぜつちん身をのがれんと前へ出る

お話がちよつと下に下りすぎて失礼。目の廻る程忙しかつた野の仕事もつく〳〵ぼうしの声がすがれる頃になるとゞ、ほつとする。晩秋蚕はあるがそれも桑不足で僅かおつきあいの程度。二百十日も無事にすむ頃は曼年を祝う秋祭の太鼓の音が野に里にこだまする。仕立おろしのかわいらしいゆかたに友禅模様のおびをちよこんと結んで今日だけはおとなしくお祭見物にゆく。でも家によつてはお客の接待やらお店の仕事で仲々忙しい。子供は朝のうちから祭につれていつてくれと何回となくせがむ

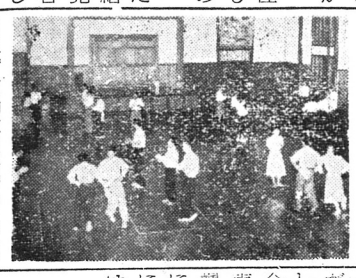
丁度折も折となりのおばさんが孫をつれてゆくとか。これ幸といくらかのお小使をもたせておばさんにつれていつてもらう。自分の家だけかと思つたらこんな仲間が近所に何軒もある。おとなりのおばさんは幼稚園の遠足の様に子供をぞろぞろつれて、それでもいそいそ祭見物に行く。田の草とりなら一向に疲れを見せないおばさんも全くしたこともない幼稚園の保母さんの仕事にはヘト〳〵に気ずかれして夕方やつとの事で家にたどりつく。どんなに疲れても責任上やはりあずかつた子供はそれ〴〵の家まで送りとゞけねばならない

○祭からもどるとつれた子をくばり

（中学校長）

憩のひとゝき

今回青年会ではリクリエイションの一つとして、スクエアーダンスを導入し初秋の夜風に打たれつゝ、秋期の余暇をさいて熱心に練習を行なつた。来る十一日の全村運動会へ出場し、あざやかな舞踊ぶりを村民皆様に公開するとの由。



農業経営主体は酪農

茨城開拓の便り

このほど茨城県新治郡志士庫文新生開拓農業協同組合の本村出身者下平郡治氏より開拓の様子を次の如くしらせてきた。

拝啓初秋の候となりました。村民皆々様御元気で暮られますか。私達もお蔭様で元気にて開拓に一生懸命であります。前々より折々と公民館報をお送り下さいまして

なつかしい村の様子がよくわかりまして何より楽しみにして居ります。開拓も忙しいまゝにていつも〳〵も御無沙汰致して居りまして申訳ありません。

お蔭様にて当開拓組合も日を追つて増々発展しつゝあります。組合員六十五人をもつて組織して居りまして、酪農を主体として進んで居ります。六十五戸に現在乳牛が百頭近く居ります。随分にぎやかなものです。今年は気候不順の為作柄も心配して居ますが、今の所では相当な収穫が見られる事と思つて居ります。

お便りに依ればボ下先生が公民館長でおられる由、今後の御発展を祈り上げます。叩せにしたがいまして別紙へ当組合の竜丘村出身者名を書き入れ同封致しました。

村民皆々様の御壮健をお祈り致しまして御礼の言葉申上げ御返事迄に。

（八月三十一日）

4・H 若き歌声は野に山にひびく

秋季クラブ大会

村4Hクラブ協議会は、四月以来新しい進に路向つてクラブ活動を尊ぶし多大の成果をあげて来たが、こゝに前半期の最後の事業として九月二十二日秋季クラブ員大会を開きクラブ最長の日として歌声は野に山にひゞき渡つた。

颯爽たるペタルは、朝八時開善寺に集合し、四葉のクラブ旗を先頭に夜十時半まで二十五名の出席者は農村青年として新しい角度で物

を視、聞き批判し地についたところのクラブ活動が展開された。

当大会に行われた主なものを拾つてみると。

Aクラブ員のプロデエクトと圃場巡回視察―日頃行われている研究圃場を視て回り各人ごとに説明を加え又クラブ員に批判してもらうそうして自分のプロデエクトの完成につとめる。

B実物講演研究会――これはクラブ員がどの位農業や生活に必要な物事を知つているかを試すもので、今回は五〇点の病虫や肥料、種子農薬等を鑑定し答案用紙に記入し自分の本当の実力を自分で知す方法で行なつた。この競技会では七〇点が最高で平約五〇点であつた。

C料理研究会――「パン食はなぜわれ〳〵の主食として普及しなかつたか」と題して図作の今日としてワークショツプが行われ、夕食としてパンを食べると同時に副食物として、カロリ等の計算が行われた。リクレーション、反省会等

「こゝに泉湧く」それは常に前進し思索して止むことを知らない。

4Hクラブの旗である。

秋空高く精進するクラブわれ等は共に肥ゆる。

九月詠草

公民館歌会

○ノート取る指にまつわる白き蛾を淡き光にすかし見つむる　折金久子

○霧籠もる丘畑の土熊黒し玉葱の種を播き終えにけり　牧内清志

○野茨のほのかに匂ふ道を来て取止めもなき愛（かな）しさの湧く　橋爪丘の人

○朝の霧晴れ上りたる田の畦に協同消毒の動噴（どうふん）始動す　岡村美文

○秋海棠のまるき葉を打つ雨しぶき簾をとほし縁を濡しぬ　木下きの

○凶作を憂へし友の便り来ぬもくげの花の重く落つる日に　塩沢襲男

○帰郷せしわれはそぞろに哀れなり友の便りの絶えて久しく　原美好

○やき鳥と焼酒代が五十円程長き酔ひの夜に入りたり　中田美稔

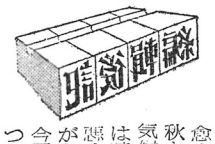
○病みつゞけて視力衰ふ吾を呼び子が指す空の見えぬ飛行機　中田美穂

○陽の白く斑に漏れる木蔭にてそつと拭ひぬ粧ふ面（も）の汗　久保田颯実子

次回歌会　十月十日（第二土曜日）

紙面の都合上今後十首づつのせることゝする。

出詠者は十五名であつた。



愈々とりいれの秋となつたが悪気候の為農作物は甚だしく成績悪く今後の経済が心配だ。

今回の編集に当つては、紙面が少い為に沒書にした原稿が有るけれども御承解下さい。

私達編集部としては、広く皆様方の御意見をお聞きし発表し、少しでも村作りのお役に立ちたいと思つていますから幾度か御意見をどし〳〵御投稿下さい。